

〔小学校中学年部門〕

知事賞

【題名】 せんそうをなくすためにできること
 【学校・学年】 鳥取市立久松小学校四学年
 【氏名】 柿本 翔

ぼくのおじいちゃん人は昭和二十年六月生ま
 れです。ちやうどそのころ神戸では大ききぼく空
 しやうが、あき多くな人がぼくだんでやかれ清
 太のお母さんもなくになりました。清太はぼく
 と同じ四人家族で、でも、おとうさんは
 せんそうに行き、お母さんは空しやうでなく
 なり、清太と妹だけがのこりました。二のお
 話は、せんそうでお母さんが死んでから、清
 太が死ぬまでのたつた三ヶ月のいきごとです。
 二の本をえらんだ理由は、前にはだしのゲ
 ンを読んで、せんそうの二あさを知り、もつ
 とせんそうについて知りたかたからです。
 妹と二人きりになつた清太は親せきの家に
 行きました。初めはやさしかつたけど、たば
 ぶる物がなく、たんだんいやみを言われるよう
 になりました。なんてひどい親せきと思いました。
 おばさんの子には具だくさんのごはんで、清
 太たちは汁だけのぞうすいで、いつもおなか
 をすかせてかわいそうでした。
 けっさよく、清太と妹はばうくらうごうでく

らします。最初は自由でたのしかったけど、
 すぐに食べ物がないなり、かえるやたにしを
 つかまえて食べました。けねど妹はえいよう
 ぶろくび病気になつたので、清太は生きるた
 めに畑からイモやサトウキビをぬすみました。
 妹を守るために必死でぶろぼうしたのどと思
 いました。子どもだけの生活は食べ物がなく
 節子はおなかですますぎとおはじきをドロツ
 プだと思つてなめていました。そしてついに
 節子はなくなつてしまいました。
 ぼくにモエオ下の妹がいます。朝ごはんを
 食べるのも、学校に行くのも学校が帰るの
 も、勉強するのも遊ぶのもいつも妹といっし
 ゃです。そんな妹が死んで二つとあえなくな
 るなんて考えられません。妹にあいたくて、
 悲しくて妹めをばがり考えます。それなの
 に清太は悲しみをこらえて一人ひ妹をかえう
 しました。清太はとも強いつと思ひました。
 ぼんばい大好きな妹をもやすがんでかおいそ
 うびせつたいびをません。

節子が死んで一か月後、清太も駅で一人で
 なくなりました。ほへは悲しくても心がぎ
 と苦しかったです。せんをうはせったいに二
 度としてはいけません。いつぱくさんが落ち
 るかあからない毎日の中、食べる物もなく、
 みんなその日を生きているのに必死で、せんを
 はいろんな物をさうばいます。子もから親お父
 さんとお母さんと住むばしよをうばい、親お父
 さんのおばさんかやさしい気持ちさうばい、
 清太から人間らしく正しく生きる気持ちさう
 ばいました。多くの命がぎせいにになりました。
 ほへのおじいちゃんのお兄さんや高校生なの
 にへいたいに行かされ、なくなりました。せ
 んそののひさんさをするこ、たくさんのお
 せいがあつて今の平和があるど気がくこが
 せんをうはせんとおもいます。ぼくはおじい
 ちゃんから話を聞いたリ、れきしの本をよんで
 もつとせんをうのこを勉強したいてす。こ
 しん広島原ばくし料館とちいさんとつら平和
 会館に行き日本のかを正しく知りたいてす。